**基本情報**

時間割コード／Course Code　311444（OSIPP）/　220547（Law）/　020661（学部）

開講区分(開講学期)／Semester　秋冬学期

曜日・時間／Day and Period　木4 　15:10~16:40

開講言語／Language of the Course　日本語

開講科目名／Course Name (Japanese)　経営者と語るリーダーシップ

教室／Room 国際公共政策研究科棟　2F　講義シアター

担当教員／Instructor　高橋 慶吉、地神　亮佑、野村　美明、西嶋　聡

**詳細情報**

**授業の目的と概要／Course Objective**

阪大OBらの協力により、企業のトップをゲストに招き、チャンスもリスクも国境を越える時代のなかで、企業人としてのリーダーシップのあり方や奥義を、事業や経営に携わった体験をもとに、語りかけてもらいます。
一方的な講義を避け、質疑を通じた対話が成立するように、学生が企業および教員と協力しながら授業を創ります。随時若手社員との懇談の機会も設けられるので、会社や就職の実際についての質問もできます。

この授業の受講者は、授業をチームで運営することによって、リーダーとしての心と体の動かし方や責任を体得します。授業当日のゲストスピーカー紹介、謝辞、ファシリテーター、マイク回し、写真撮影や機材の操作は、すべて授業を受講する学生が担当します。学生主体の授業です。

* 本年度は、対面授業またはメディア授業のどちらかを選択することを可能とします。授業を受けるのではなく授業をつくる準備をしてきてください。
* 授業形式は基本的に講義40分+質疑応答35分です。ゲストスピーカーによっては、1つまたは2つ以上の課題を出して議論する方法やグループディスカッションも取り入れる場合があります。
受講生による毎回のゲストや授業運営へのフィードバック、振り返りによって、主体的に考え失敗から学ぶ機会をできるだけ多く設けます。

(実務経験のある教員による授業科目)

企業のトップをゲストに招き、グローバルな企業活動のための社会責任とリーダーシップをいかに果たしていくかを学生と対話しながら授業を行います。

（受講理由書）シラバスを熟読して、なぜこの授業を受講したいかを記載した受講理由書をメールで提出して下さい。締切：１０月末日。形式：A4用紙一枚以内(Word ポイント11)とし、ファイルのヘッダーに提出日 氏名 学番 メールアドレスを表記すること。メールは<glp@osipp.osaka-u.ac.jp>宛、必ず表題に「受講理由書2021経営者と語るリーダーシップ(受講者名)」を記載すること。

**（ゲストおよび授業日程）**昨年度は、三井住友DSアセットマネジメント株式会社代表取締役会長　松下隆史様、伊藤忠商事株式会社名誉理事 小林栄三様、住友林業株式会社代表取締役執行役員副社長　佐藤建様、株式会社パソナグループ代表取締役・グループ代表　南部靖之様、三井住友信託銀行株式会社エグゼクティブアドバーザー　尾中浩一様、三井住友海上火災保険株式会社取締役専務執行役員　川手環様、第一三共株式会社常勤顧問　中山讓治様、広栄化学株式会社代表取締役社長　西本麗様がご登壇されました。下記URLの授業日程をご覧下さい。（http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/keieisha.html）

**（受講生の感想）**

・我々のチームは早期にSNSでチャットルームを作成して作業分担を明確にしていたため、業務を効率的に遂行することができたように思います。また各自がそれぞれの業務をチャットで共有することで、それぞれの業務の進捗が組織内で見える化していた点も評価できる点かと思います。分担されたそれぞれの業務において、それぞれがリーダーとフォロワーの関係になる一方、自分の役割でない業務についても当事者意識を持つことが、この関係性によって可能となったと感じました。（法学研究科　2年）

・ゲストから学んだことや、自分自身、そして組織全体を振り返ってみて、「オンラインで主体的に参加するってどうしたらいいんだろう？」と手探りだった初回の授業からすると、「組織の構成員全員で授業を作り上げる」というところまで持っていけるようになったのではないかと思います。（法学部　国際公共政策研究科3年）

**（聴講歓迎します）**
ゲストにも受講者にもお互いに名前をわかった上での対話をしてもらうために、聴講は事前申込にて受付けます。
申込先：glp@osipp.osaka-u.ac.jp

**成績評価／Grading Policy**

1. 受講理由書，②平常点（行動の適切さ＋発言内容＋振り返りシート＋自己評価＋相互評価），③学期末レポートで総合的に評価します。

・受講理由書最終締め切りは10月末日です。

・受講理由書と学期末レポート（総合振り返り）の２つを提出することによって、受講前後で自分自身にどのような変化が生じたのかを実感できます。

・無断欠席した者は評価の対象としません。無断で遅刻・早退した場合も同様とします。

・時間厳守や立ち居振る舞いなど、ビジネスパーソンとしてのマナーを身につけられるかも評価の対象です。

**学習目標／Learning Goals**

・本物のビジネスリーダーの話を傾聴し、観察し、共に語らうことによって、リーダーシップについて、本では学べない知識と教訓を身につけることができます。
・授業を自ら運営することによって、リーダーとしての心と体の動かし方や責任や信頼について、具体的に理解できます。

**授業外における学習**

・この授業はグローバルリーダーシップ・プログラムの一部です。http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html. GLPで開講する科目を続けて受講することで、リーダーシップをよりよく理解し、身につけることができます。春夏学期の「実践グローバルリーダーシップ」はベンチャーや公共政策分野のリーダーから学びます。秋冬学期水曜6限の「リーダーシップを考える」は、セミナー形式でディスカッションや授業を創ることに重点を置いています。

**特記事項／Special Note**
GLPは大学院副専攻/大学院高度副プログラムです（大学院生のみ）。要件を満たせば修了認定書が発行されます。

**受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students**

授業目的に共感し、対話型授業と協働作業に積極的に参加する学生を望みます。本物から学びましょう。

**授業形態／Type of Class**講義科目

**授業計画／Class Plan**

第1回　　オリエンテーション

【内容】アイスブレーキング／授業日程の説明、パワーポイントによる授業説明。質疑応答。

第2回　　 授業運営方法

【内容】ビジネスメールの基礎、グループ分け、グループ内担当決定、授業担当グループ決定

第3回　　 授業運営スキル研修

【内容】ミニプレゼン

グループ分け、グループ内担当決定、授業担当グループ決定

第4回　　振り返り

【内容】ディスカッション

第5回　　講師1講義：

【内容】講師1の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第6回　講師2講義：

【内容】講師2の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第7回　 講師3講義：

【内容】講師3の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第8回　 振り返り

【内容】ディスカッション

第9回　講師4講義：

【内容】講師4の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第10回　 講師5講義：

【内容】講師5の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第11回　 講師6講義：

【内容】講師6の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第12回　講師7講義：

【内容】講師7の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第13回　 講師8講義：

【内容】講師8の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第14回　最終振り返り

【内容】今までの授業の振り返り、評価シートを使った自己、相互振返り。

第15回　成果発表会

【内容】受講生と日程調整する予定

**教科書・教材／Textbooks**

「GLP共通テキスト」

**参考文献／Reference**

以下の他は、講義中に指示する。

野村美明ブログ　http://nomurakn.blogspot.jp/　＝過去の授業の教材や参考資料を掲載しています。「リーダーシップ」で検索してみてください。

マーティ・リンスキー,ロナルド・A・ハイフェッツ/竹中平蔵訳『最前線のリーダーシップ』（ファーストプレス 2007年)（原著Ronald A.Heifetz "Leadership on the Line"(Harvard Business School Press, 2002)＝共通テキストが引用している本です。

『リーダー・パワー』ジョセフ・S・ナイ（日本経済新聞出版社2008 年）（原著Joseph S. Nye, Jr., The Powers to Lead, Oxford, 2008)＝共通テキストが引用している本です。

シャロン・ダロッツ・パークス／中瀬英樹訳『リーダーシップは教えられる』（ランダムハウス講談社、2007年）（原著Sharon Daloz Parks, Leadership Can Be Taught, Harvard Business School Press, 2005).

堀公俊『ワークショップ入門』日経文庫　2008年。プログラムデザインやファシリテーションスキルが学べます。

**授業担当教員**

高橋 慶吉　法学研究科　t-takaha@law.osaka-u.ac.jp

地神　亮佑　法学研究科　r-jigami@law.osaka-u.ac.jp

野村　美明　国際公共政策研究科　nomura@osipp.osaka-u.ac.jp

西嶋　聡　国際公共政策研究科　s-nishijima@osipp.osaka-u.ac.jp